世田谷文学館　開館30周年記念
コレクション展　海野十三と日本ＳＦ

2025年4月26日（土）～9月28日（日）
同時開催　ムットーニコレクション

※混雑時入場制限あり

【開館時間】10：00～18：00（入場とミュージアムショップは17：30まで）
【休館日】毎週月曜日、および5/7、7/22、8/12、9/16
　　（ただし、5/5、7/21、8/11、9/15は開館）
【主催】世田谷区、公益財団法人せたがや文化財団　世田谷文学館
【後援】世田谷区教育委員会
【協力】徳島県立文学書道館、日本SF作家クラブ

広報用貸し出し画像
貸出条件
◆本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください
◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください
◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください（会場風景画像は除く）
◆画像データは、ご使用後必ず消去してください
◆画像データを第三者に渡すことを禁じます
◆画像にはコピーガードを施してください
◆発行後、掲載誌を１部お送りください
◆貸し出しご希望の際は　webmaster@setabun.net　へご連絡ください

画像00　クレジット不要・ポスターデータ

★コレクション展「海野十三と日本ＳＦ」後期展示資料について★

2025年6月17日(火)から下記の資料を新たに展示いたします。～９月28日(日)まで

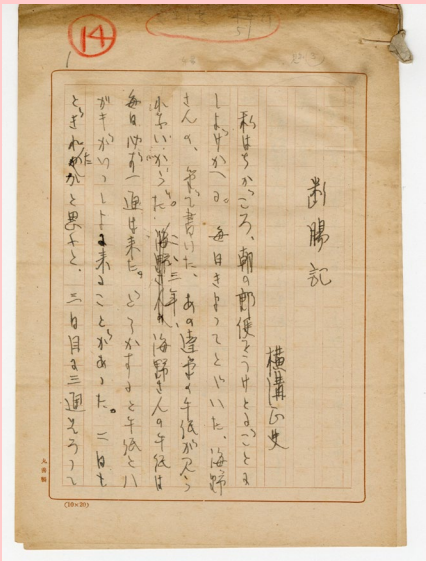
●江戸川乱歩「海野君のこと」原稿　個人蔵
●横溝正史「断腸記」原稿　個人蔵（画像08）

いずれも1949年6月「探偵作家クラブ会報」の〈故　海野十三氏追悼特別号〉に寄稿したものです。
乱歩は、探偵小説と科学小説の両面で活躍した海野の業績を紹介。横溝の「断腸記」は、海野との親しい交流を語るとともに、海野が亡くなる日に書き送った手紙についても触れています。「私はこの手紙を顔におしあてて涙にくれた。いまも断腸の涙にくれている」。
「探偵作家クラブ会報」は「日本探偵作家クラブ」の会報誌です。同会は会長を江戸川乱歩として1947年に発足、現在の日本推理作家協会の前身にあたります。この号は前年に「刺青殺人事件」でデビューしたばかりの28歳の高木彬光　(1920 - 1995)が編集に携わり、関連資料を長年大切に保管していました。
このたび、関係者のみなさまのご協力により初出品の運びとなりました。

また、下記資料も展示（初出品）いたします。
●海野十三画　高木彬光似顔絵　個人蔵（画像09）
●海野十三　高木彬光あてはがき　1949年3月27日　個人蔵

あわせて星新一の草稿も次の作品に展示替をいたします。
●星新一「午後の恐竜」草稿　星ライブラリ蔵
●星新一「あーん。あーん」草稿　星ライブラリ蔵

※海野十三「空襲都日記」「降伏日記」（1944年～1947年　徳島県立文学書道館蔵）の実物展示は6/15までとなります。



画像08

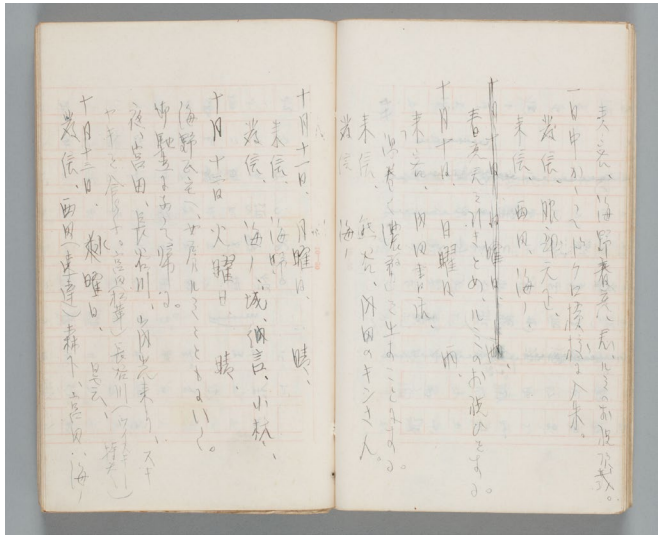
画像09

画像01　海野十三肖像　作家デビューのころ

画像02　海野十三肖像　行灯ラジオを発明したころ

画像03　海野十三『地球盗難』（1937年　ラヂオ科学社）装画：松野一夫

画像04　海野十三『地球人最後の冒険』（1948年　高志書房）　装画：飯塚羚児



画像05　横溝正史「日記」1948年　10月12日の記事

画像06　海野十三旧蔵8ミリ映写機

ムットーニコレクション
（混雑時は観覧制限あり）
2025年4月26日～9月28日

当館の開館以来、特色あるコレクションのひとつとなっているムットーニ作品をご紹介します。
開館時間中毎時30分から上演
※ご入場にはコレクション展チケットが必要です

･･･上演作品･･･
《月世界探検記》
《アトラスの回想》
《エッジ・オブ・リング》特別出品
《アローン・ランデブー》

画像07　ムットーニ《月世界探検記》（海野十三「月世界探検記」より）1995年

会場風景01

会場風景02

会場風景03

会場風景04

会場風景05

会場風景06

会場風景07

会場風景08

世田谷文学館　開館30周年記念コレクション展
海野十三と日本ＳＦ

「地球盗難」とは、今のところ科学小説の題名でしかありません。がしかしデス、未来の世に「地球盗難」事件が起らないとはだれが保證できましょうか？」
（海野十三　『地球盗難』より）

日本ＳＦの父とも呼ばれる海野十三（1897～1949）は戦前から戦後にかけて数々の空想科学小説を書き、絶大な人気を博しました。手塚治虫や小松左京ら、後にＳＦ第一世代となる作家たちは、子ども時代はみな海野の愛読者でした。

真空管の開発に携わる科学技術者だった海野は1928年、「電気風呂の怪死事件」でデビュー。異色の探偵作家として知られるようになります。以後、少年向けの科学冒険小説ジャンルを開拓しつつ、ロボットやロケット、人工臓器、地球外生命、宇宙戦争、タイムトラベルなど多様なテーマを豊かな想像力と科学者としての知見に基づくリアルな筆致で描き出していきました。

本展では、海野十三の軌跡を追いつつ、同じく世田谷に住んだ横溝正史や小栗虫太郎との友情、さらに海野の影響を色濃く受けた手塚治虫、星新一、小松左京、筒井康隆、豊田有恒らＳＦ第一世代の仕事もご紹介し、いま現在も小説、マンガ、アニメ、映像、ゲームへと無限に表現を広げていく日本ＳＦの想像力の源流に迫ります。

【主な出品資料】2025年6月17日(火)～
海野十三　「原子力少年」原稿(未完)
海野十三　高木彬光の似顔絵　※初出品資料
海野十三　横溝正史あて書簡　1949年5月17日
横溝正史　「日記」1948年　※初出品資料
横溝正史　「断腸記」原稿　個人蔵　※初出品資料
江戸川乱歩「海野君のこと」原稿　個人蔵　※初出品資料
小栗虫太郎　「黒死館殺人事件」原稿
星新一　「あーん。あーん」「午後の恐竜」草稿　星ライブラリ蔵
日本空飛ぶ円盤研究会　「空飛ぶ円盤　観測のしおり」　星ライブラリ蔵
小松左京　『星殺し』（1970年　早川書房）豊田有恒への署名入り献呈本
北杜夫　絵画「火星とお化け」ほか　**＊原稿、日記、書簡、書籍など約２００点を展示**

【会期】 2025年4月26日（土）～9月28日（日）
【開館時間】10:00～18:00（入場とミュージアムショップは17:30まで）　**【休館日】**毎週月曜日、および5/7、7/22、8/12、9/16（ただし、5/5、7/21、8/11、9/15は開館）
【会場】世田谷文学館　東京都世田谷区南烏山1-10-10　03-5374-9111　https//www.setabun.or.jp　京王線「芦花公園駅」南口より徒歩5分
【主催】世田谷区、公益財団法人せたがや文化財団　世田谷文学館　**【後援】**世田谷区教育委員会　**【協力】**徳島県立文学書道館、日本SF作家クラブ
【入場料】一般200円（160円）/高校･大学生150円（120円）/65歳以上､小･中学生、障害者手帳をお持ちの方100円（80円）
＊（　）内は20名以上の団体利用や「せたがやアーツカード」等の各種割引料金です
＊5月9日（金）は、65歳以上無料（コレクション展のみ）
＊9月15日（月・祝）は、60歳以上無料（コレクション展のみ）
＊世田谷区内在住・在学の小中学生は、土、日、祝日は無料になります
＊各種割引については、手帳など証明できるものをお持ちください
＊障害者手帳をお持ちの方で大学生以下は無料になります
＊障害者手帳をお持ちの方の介添え者（1名まで）は無料になります
＊企画展開催中は企画展のチケットの半券で、本展をご覧いただけます。混雑状況によって入場制限させていただくことがあります

同時期開催企画展　世田谷文学館 開館30周年記念「士郎正宗の世界展～『攻殻機動隊』と創造の軌跡～」2025年4月12日(土)～8月17日(日) 2階展示室

世田谷文学館学芸部広報担当　世田谷区南烏山1-10-10　webmaster@setabun.net　電話　03-5374-91111　ＦＡＸ　03-5374-9120